

広島市民オーケストラ
第30回 定期演奏会

マラー

GUSTAV MAHLER: SYMPHONY No.5 in C# minor

交響曲
第5番

嬰ハ短調

—— 漆黒の闇を切り裂く、魂の軌跡 ——

死と生、絶望と希望、孤独と歓喜—

マラーが人生そのものを音楽に刻み込んだ壮大な傑作。

名高い第4楽章(アダージェット)の弦楽器による深い祈りと静寂、
そして終楽章の輝かしい勝利へ。

広島市民オーケストラが総力を結集して挑む記念すべき第30回
定期演奏会。

J.シュトラウスII世: 喜歌劇《こうもり》序曲

指揮

清水 醒 輝

Daiki Shimizu

2026年 11月 22日 (日)

13:00開場・14:00開演

広島国際会議場 フェニックスホール

広島市中区中島町1-5

入 場 料 (全席自由)

一 般 1,000円 高校生以下 無料(学生証をご提示下さい)

※未就学児のご入場はご遠慮下さい ※ 当日券あり



[チケット販売]

お問い合わせ

広島市民オーケストラ

Tel 080-8567-5321

E-mail HCOdancho@gmail.com

(団長: 山川啓介)



チケットぴあ

主催: 広島市民オーケストラ・公益財団法人 日本交響楽振興財団 後援: 広島市教育委員会・中国新聞社



競輪の補助事業

この演奏会は、競輪の補助を受けて開催します。

<https://jka-cycle.jp>

～ 30回記念、マーラーの5番への挑戦 ～

広島市民オーケストラは、春のスプリングコンサートに続き、秋の定期演奏会も節目の30回を迎えることとなった。30回記念として、スプリングコンサートでは、広島県内の中高生との共演という視点を外側に向けた企画を行った。一方、定期演奏会では視点を内側に向けて、これまでの演奏活動の集大成とさらなるレベルアップのため、マーラーの交響曲第5番という大曲に挑戦する。

マーラー(1860～1911)は主にオーストリアのウィーンで活躍した作曲家、指揮者である。彼の10曲の交響曲はいずれも大規模で現代社会の複雑さを反映したものだが、その中でも特に高い人気を得ているのが1902年に完成された第5番である。その理由としては、大編成オーケストラの性能をフルに発揮した円熟の作曲技法、暗闇から栄光へというドラマチックな展開、そして映画「ベニスに死す」で使われて有名になった美しい第4楽章のアダージェットなどが挙げられよう。

曲は重苦しい葬送行進曲の第1楽章、激情の第2楽章、ウィンナワルツを連想させる楽しい第3楽章、当時新婚だったマーラーの愛があふれた第4楽章、輝かしいフーガによる第5楽章から構成される。この曲を作曲した頃のマーラーは、ウィーンの聴衆や評論家との関係悪化によりウィーンフィルの指揮者を辞任したり、20歳も年下のアルマとの結婚や長女の誕生など、まさに人生の激動の時期であり、それをそのまま表現したような作品である。

ヨハン・シュトラウスⅡ世(1825～1899)は「美しく青きドナウ」などのウィンナワルツで有名な作曲家であるが、彼の喜歌劇「こうもり」もこのジャンルの代表作と言われる作品である。あらすじは仮面舞踏会でこうもりの仮装をして恥をかかされた男が、その元凶となった友人に恋愛のドッキリを仕掛けるというものである。序曲は喜歌劇中の美しい旋律や楽しいワルツを使った、記念演奏会の開始にふさわしい華やかで生き生きとした音楽である。

アマチュアである広島市民オーケストラは、仕事や家庭などと両立しながら大勢のメンバーが集まって一つの音楽を作りあげてきた。30回のスプリングコンサートや定期演奏会で積み上げてきた力を、難曲であるマーラーの交響曲第5番でも発揮して、皆さまに喜んでいただける演奏会になれば幸いである。

(インスペクター 藤井 孝宏)

広島市民オーケストラ

広島市民オーケストラの前身である「広島JMJオーケストラ」は、1979年に「第36回青少年音楽祭」が当地で開催された際に、設立をされたものです。

音楽祭のためのオーケストラは通常、音楽祭の終了とともに解散するのですが、広島においては音楽祭終了後も、アマチュアのオーケストラとして活動を継続していくこととなりました。

1994年11月に開催された「第66回青少年音楽祭」の後、これまで以上に地域に密着した市民参加型のオーケストラとして音楽活動を展開していこうという機運の高まりを受け、1995年に「広島市民オーケストラ」と名称を改めました。

団の音楽活動としては40年を越えましたが、スプリングコンサートや定期演奏会、県内各所でのミニコンサートなど、これからも地域に根ざした音楽活動を続けていきたいと考えております。



指揮者
清水 醒輝